

CONTENTS

- 3 まちの話題
 - 元気な街人紹介します NO2
 - 馬上酒造場 134年余りの歴史に幕
- 6 **【連載特集】つながる つなげる(その27)**
 - 創作館プレイベントの内容紹介
 - 「ミュージアムバス制作」
 - 「基調講演会・シンポジウム」
- 8 いきいきくまの(休日当番医・保健行事)
- 10 けんこう通信
 - 高齢者の予防接種費用を助成します
- 11 くまの・こども夢プラザ
 - 子育て支援センター通信
- 12 ハロー！公民館・図書館です
- 14 ぼくたちの学校！わたしたちの学校！
- 16 筆の里工房
 - 展覧会「プレバト才能アリ展」開催
- 17 暮らしの情報
 - < Pick UP ! >
 - 年金生活者支援給付金制度について
 - 令和9年度保育所・認定こども園の入所の申込について
 - 水道メーター検針業務を法人へ委託します。
 - 熊野町教育委員会委員の再任について
 - 農業祭を開催します
 - 令和8年8月千葉豪雨支援金受付のお知らせ
- 24 **今月の題字・ギャラリー(熊野第四小学校)**
熊野町食べ物歳時記
 - 学校給食のメニューにもなった「熊野の黒大豆ごはん」

今月の表紙



熊野町美術博物館筆の里工房 創作館オープン!!

9月23日(水・祝)筆の里工房に、新たな体験交流施設として「創作館」が誕生しました。この「創作館」は、熊野町の筆文化を未来へつなぐ文化芸術の新たな交流拠点です。筆を使った創作活動や、人々との交流、学び、そして表現を存分に楽しむことができる場です。これに伴い、熊野町美術博物館 筆の里工房は「本館」と「創作館」の2つの施設構成となり、これまで以上に筆の魅力やものづくりに触れられる空間へと生まれ変わりました。みなさんのご来館をお待ちしております。

撮 影 日: 9月23日(水・祝)
 撮影場所: 熊野町美術博物館 筆の里工房 創作館

筆の駅ミニギャラリー

●広島ゆかりの作家展(後期 絵画)

前月の書道に引き続き、今回後期は絵画作品を展示します。

時 10月1日(木)～17(土)
 ※期間中無休

奥田元宋・其阿弥赫土・
 児玉希望・小林和作・
 換田謹子・平山郁夫・
 南 薫造

熊野町観光案内所「筆の駅」 所 熊野町出来庭10-6-24 問 ☎855-1123 入館料無料
 開 10:00～16:00 ※展示最終日は15:00閉館 休 日曜日・祝日(催しがある場合は開館)

記号の説明

時 日時 開 開館日 休 休館日 所 場所 対 対象 料 参加費・料金 持 持ち物 定 定員
 講 講師・指導者 申 申し込み場所・方法など 締 申し込み締切日 問 問い合わせ先



フランスから熊野町へ ～日仏をつなぐ、あたたかな出会い～

地域おこし協力隊 ピエール・ルマヌさんと、ルマヌ桃乃さんのご紹介



/// ようこそ、熊野町へ！

町では、人が集まる居心地の良い「交流の場」、日常の中で文化を感じ深められる「憩いの場」、地域の魅力をやさしく伝える「発信の場」として、人と文化をつなぎ、熊野町らしい新たな価値を町と共に創出することを目的に、観光交流拠点を盛り上げる地域おこし協力隊として「カフェ・クリエーター」を公募しました。

そして、今年5月から新しく地域おこし協力隊の2人を迎えました。フランス・ブルターニュ地方レンヌ市出身のピエール・ルマヌさんと、熊野町川角で生まれ育ったルマヌ桃乃さんです。ご夫婦として熊野町を拠点に活動をスタートしています。

/// 2人の出会い、そして熊野町へ

大学でプログラミングを学び、IT関連企業に勤めていたピエールさん。桃乃さんは大学卒業後に生まれ育った熊野町からフランスへ渡り、観光地モン・サン・ミッシェルや地元のカフェで働きながら、異国の文化や暮らしを肌で学んでいたそうです。そんな2人がレンヌ市で出会い、やがて共に人生を歩むことになりました。

ピエールさんには、熊野町移住への不安がなかったわけではありません。それでも、「桃乃さんの育った町であること、そして初めて訪れたときに感じた、熊野町の人たちの温かさや優しさ」が背中を押してくれたと、穏やかな笑顔で話してくれました。

桃乃さんは、ピエールさんへの思いをこう語ります。「海を越えて、自分の生まれ育った町に来てくれたことが、本当にうれしくて、ありがたくて。私の見慣れた景色が、ピエールの目にはどう映っているんだろうと想像するだけで、この町がもっと好きになりました」。フランスでの日々は充実していたけれど、帰ってきたこの熊野町の空気が、やっぱり1番ほっとすると笑います。異なる国の文化を背景に持ちながら、同じ目線で熊野町の未来を見つめる同い年の2人が、今ここから新しい物語を紡ぎはじめています。

/// 筆の里工房 カフェ OPEN

現在2人は、9月23日に筆の里工房創作館内にオープンしたミュージアムカフェ「Le Petit Kuma(ル プティ クマ)」の運営を始められています。コンセプトは「フランスのカフェ」。それは、コーヒー1杯で何時間でも過ごせる、人々がゆったりと集い語らうための場所です。誰もが気軽に立ち寄ってもらえる「まちの居間」のような空間を目指しています。

メニューの柱となるのは、本格ガレットとクレープで

す。ピエールさんの生まれ故郷であるブルターニュ地方は、ガレットとクレープの発祥の地。カフェよりもクレープ料理店(クレプリー)の数が多いといわれるほど、地元の人々の暮らしに深く根付いた食文化だそうです。さらに今後は、熊野町や広島県内でとれた旬の野菜や果物を使った、地産地消メニューも取り入れる予定です。フランスの味と熊野の恵みが出会う、唯一無二のカフェになりそうです。

ピエールさんは、「カフェを地域の人がつながる場所にしたい」「人と人を結び場所として、来てくださった方とたくさん話したい」と語ります。そして桃乃さんは、「海外で得た経験を、生まれ育った熊野町に還元できる場をつくりたい。ここに来れば、熊野に居ながらにして新しい視点や文化に触れることができる場所にしたいです。そして、誰もが居場所だと感じられるコミュニティをこの町に根づかせたい。これが、私たち2人がこの町で実現したい確かなビジョンです」と力を込めます。

/// 熊野町をもっと元気に

ピエールさんは、「コミュニティというものは、ただ人が集まるだけでは生まれません。お互いの顔を知り、話し、笑い合うことを積み重ねてはじめて、本当のつながりが育まれる。フランスのカフェがそういう場所であったように、このカフェもそんな場所になれたらと思っています」と語ります。1杯のコーヒーを囲んで生まれる会話、交わすあいさつ、季節のイベントで顔を合わせる喜び。そうした小さな積み重ねが、地域のつながりを太く、深くしていくのだとピエールさんは信じています。

桃乃さんはこう言葉を続けます。「コミュニティって、一方的に『つくる』ものじゃないと思うんです。一人ひとりがいなく『アイデアや経験』、『地元への愛情』が集まって、自然と育っていくものだと思っています。だから私たちは、その『きっかけ』をつくる場所でありたい。ここに来ると元気が出る、また来ようと思える、そんな場所にしていきたいです」。

ふるさとへの愛と、フランスで育んだ感性を胸に、28歳の2人が熊野町に根を張ろうとしています。まずは、気軽に声をかけてみてください。温かい笑顔で、応えてくれるはずですよ。

■■■ 地域おこし協力隊とは ■■■

地域おこし協力隊は、都市部の住民が地方などに移住し、農林水産業の応援や地域ブランド開発などの活動を行いながら定住を目指す制度です。地方自治や地域振興を担う総務省が2009年に創設・推進した地方創生に挑戦できる国の制度です。

(取材:政策企画課)